
カードイスからの手紙（108）

2006年6月2日

「お知らせとお詫び」

《以下は Outlook Express 等のメール・ソフトをお使いの方には関係ないことだと思しますのでそういう方はどうぞ読み飛ばしてください》

このところ、文字化けやらナンやらとお騒がせしていましたが、どういう場合に文字化けするか、ということが特定できたように思えます。絶対の自信はありませんが、次のとおりです。

この「手紙」はメール・ソフト Outlook Express（以下OE）を使ってリッチ・テキスト（HTML形式）で作成しています。なぜなら、写真を文中に挿入して話を進めてゆくほうが添付ファイルとして送るよりイイと思ったからですし、モウ一つは、この手紙の性格上スペイン語の特殊文字ナシでは山葵のきかない鮭のようだと思ったからです。

これまでも、スペインの人たちとのメールのやり取りでアクセント記号やティルデ付の文字、疑問符や感嘆符の倒置などで困りましたが、試行錯誤の上どうにか問題なく読み書きできるようになったと自信を持っていたのです。

ところが、この「手紙」では特殊文字が読めないケースがあることを初めて知りました。それどころか文章全体が文字化けするという、予想もしなかったことがおきてしまいました。しかし、101号から107号まで全部が駄目だったわけではなくそのうちのいくつかだけが「オカシイ」となると手の打ちようがありません。

また、文字化けとは別に、画像が文中に挿入されてなくて添付ファイルになってしまっている、という方もあるようです。文章と添付画像ファイルを見比べながらでは読みにくくてしょうがないですね。さらに、A4判に印刷した場合各ページに無駄なく画像と文章が埋まるようにレイアウトしたことなど全く無意味です。

当方で把握した限りでは、上記のような不都合は、この「手紙」をホット・メールや

ヤフーなどのウェブ・メールで見てくださっている方にのみ起こっているようです。しかし、前述のスペインのメール友達の大部分はホット・メールを使っているのですから益々分かりません。

どうすれば、全ての方に問題なく見ていただけるか、チョット途方にくれました。

「サルにも分かる・・・」にはこんなケースへのアドバイスは書いてないのです。ただ、「受信者のメール・プログラムがHTMLに対応していないと、メッセージはテキスト形式で表示されHTMLのファイルは添付ファイルとして扱われる」という注意書きがありました。また、「受信者のソフトが“MIME”に対応している必要がある」ともしています。

OEは当然ながらHTML対応ですし、“MIME”対応でもあります。だからOEを使っている読者の方には多分問題が生じていないのだと思います。

全ての方からこの問題の対してご回答を頂いたわけではありませんから、OEでは絶対大丈夫とも言い切れないのが不安材料です。

もう一つ気付いたことは、OEの場合「ツール」→「オプション」→「読み取り」で「メッセージはすべてテキスト形式で読み取る」のチェックをはずしてあるか否か？
当方は勿論チェックをはずしてあります。

ウェブ・メールにはこういう設定があるのでしょうか？ 私達はウェブ・メールにはナジミがないので分かりません。

101号から107号まで作成手順は全て同じなのに、前号までの全てがOKでもなく全てがNGでもないという事実、当方では読者の方がどういう設定で見てくださっているかを把握できない、など当方では如何ともしがたいというのが本音です。

やはり安易にメールで配信という考えが甘かったと思います。メールの送受信にこれほどの問題があるとは予想もしませんでした。

正直なところ、些かうんざりして、もう「手紙」はこの号でオシマイにしようかとも思いました。しかし「楽しみにしているゾ」という方がお一人でもおられる限り最後まで続けなくては、とも思い、考え直しました。

と言うわけで、この108号は絶対文字化けしないように、特殊文字も写真もナシ、テキスト形式で作成しました。でもコレでは気合が入りません。取りあえず来週はお休みを頂いて、アタマを冷やしてもう一度「いいテ」を考えてみます。

問題の焦点はOEで作成したHTMLメッセージを如何にウェブ・メールで読み取るかという点に絞られると思います。どなたか、何かアドバイスがあれば教えてください。「サルにも分かる」ように・・・。

「3 + 1」の巻

ファンカ Juan Carlos がカアデイス旧市街に住む日本人女性に日本語を教えてもらっていると言う話はしましたね。本屋で出会った週からファンカは木曜日ごとにウチへやってきては4～5時間オシャベリをしてゆきます。既に4回きましたが、ヘンに馴れ馴れしくなるわけでもなく、節度のある好青年です。むしろおっとりしすぎていてスペイン人らしくない感じさえ受けます。

先週、彼が来たときに聞いた話ですが、彼の大学の掲示板に日本語とのインテルカンビオ（intercambio＝語学交換）をしませんか？という張り紙が出ていたそうです。ファンカは早速接触して、Yさんというその日本人と会ったと言っていました。ファンカの話では、Yさんは大学の近くの語学校で英語を勉強しているのだとか。

エエッ、スペインで英語を？ ハイ、彼はそう言いました。とファンカも半信半疑の様子。Yさんは大学はとっくに卒業して、一時就職はしたのだけれど、じきに仕事はやめて南米に渡り、2年ぐらいあちこちで過ごしたらしい。スペイン語はかなり上手だとのことでした。

まあ、とにかくコレで私達二人＋ファンカの日本語の先生Mさん＋ファンカの新たな友達Yさん、と現在4人の日本人がカアデイスにいることが分かりました。まあ、Yさんは住民登録しているわけではないから、正確には市民が3人と長期滞在が1人ということになります。いやぁー、いるんですねー、こんなとこまで来る日本人が。

先週火曜日、私達は旧市街の郵便局にシー・メールで発送できる重量と箱のサイズの限度を確かめに行ってきました。

制限重量は20キロ、箱サイズは縦横高さの合計が3メートルを超えず、なおかつ一辺が150センチを超えないこと。買うつもりだったボール箱のサイズは全てOK。後は重量制限だけが問題です。秤がないので見当だけが頼りですが、私達は荷造りにはかなりの年季が入っているのでまあ大丈夫。第一、今では20キロ以上の段ボール箱をソウ簡単には持ち上げられないからイヤでも分かるでしょう。

郵便局をでて、久し振りに旧市街でも散歩しようかと歩き始めました。郵便局と市場の間を抜けて郵便局の裏側に出ると、そこのカフェテラス（テラスと言ったって歩道上にテーブルと椅子を並べただけのもの）になんとファンカが座っているではないですか。えっ、何でこんな所に？ と見ると彼と向き合って座っているのは真っ黒に日焼けしてはいるものの、どうやら日本人らしい。ああそうか、彼がYさんだネ。

やあ、コンニチハと私達もそのテーブルへ……。それから、しばし日本語でオハナシ。私達二人は毎日お互いに日本語を話すので何も感じていませんが、Yさんにとっては久しぶりの日本語。彼は大学当時Nと同じ西宮に、しかも同じ最寄り駅の門戸厄神の線路を挟んだ反対側に居たことが分かり、お互いにビックリ。

初めはファンカも会話に入れるようにと、ユックリゆっくり話していたんですが段々早口の普通のペースになってしまって、ファンカは蚊帳の外になりかけていました。そのうち彼は携帯で誰かと話していましたが、チョットと行って立って行きました。

暫くすると、彼は、Mさんもすぐ来ます、と帰ってきました。ファンカは近所に住むMさんを迎えに行ってたんですね。日本人全員集合です。ほどなくMさんも合流、お互いに初対面の挨拶をして、益々話に花が咲きます。Mさんも関西。箕面の出身なんだそうでカァディスにはもう20年も住んでいるとか。二児の母だそうです。

そのうち、今度はMさんが携帯で誰かと話していましたが、すぐMさんのスペイン人のご主人登場。ご主人は日本語も上手で普通の会話は全く問題なさそう。そりゃソウですね、20年も連れ添った日本人女房がいるんだから。彼もスペイン人には珍しい声も小さく穏やかな話し方の学者風の人。この日は私達日本人の方がずっと賑やかでありました。

総勢6人で思いっきり日本語で話す機会を持つてました。ソロソロ昼食の時間になり、Mさんのご主人は午後の仕事もあるし、では、ゼヒ今度はこちらユックリ、と言うことでお開きにしました。

このパーティーのまとめ役はなんと言ってもファンカ。彼が日本語を勉強しているからこそ、見ず知らずの日本人同士を結び付けてくれたのです。

Yさんがカァディスで英語を勉強していると言うのは本当でした。ファンカ疑ってゴメン。Yさんが学んでいる語学校ではイギリス人ネイティブ・ティーチャーも養成しているのだそうで、将来スペイン人相手の英語教師になるイギリス人たちが教育実習のような形でウィークデイは毎日2時間無料の講座を開いているのだそうです。

彼は、去年はマドリード近くの文教都市、アルカラ・デ・エナーレスという所でスペイン語を勉強していたのだそうで、本来ならもう学生ビザはとっくに切れるのに、国家警察が間違えて5ヶ月余計に滞在許可を出してくれたのだそうです。やっぱりこの組織には色々問題があるなーと改めてそのいい加減さにあきれました。

アルカラでのコースは今年3月で一応終わったので、さて、ビザが切れるまでどこへ行こうかとスペイン人の友人に相談したらカァディスがイイ、という答が圧倒的に多かったのだそうです。彼も8月にはビザが切れるので延長しようかどうか迷っているらしい。カァディスは居心地がいいですからねー、とっていました。同感。

私達自身は積極的に日本人との接触を望んでいたわけではありませんが、こういう自然発生的なというか、偶発的な出会いは貴重です。惜しむらくはこの出会いは私達が帰国の意志を固めてからのものであったこと。もうチョット早くファンカに出会っていたらなー、とも思いますが、短い期間でも出会えなかったよりはずっとイイと満足すべきでしょう。

その後すぐ、Mさんとは海岸遊歩道でバッタリ。私達は夏の気配になってからは、深夜、寝る前に散歩することにはしていますが、Mさんもやはり夜間ジョギングだったんですね。それにしても、カアデイスは狭い。街中でファンカにバッタリ、さらに私達以外は二人しかいない日本人に、知り合ったとたん、またすぐバッタリですからね。

今までにもドコカでお互いそれと知らずに何回も出会っていたに違いない。
